

【表紙】

| | |
|------------|----------------------------------|
| 【提出書類】 | 臨時報告書 |
| 【提出先】 | 関東財務局長 |
| 【提出日】 | 平成30年3月7日 |
| 【会社名】 | 東洋製罐グループホールディングス株式会社 |
| 【英訳名】 | Toyo Seikan Group Holdings, Ltd. |
| 【代表者の役職氏名】 | 取締役社長 中井 隆夫 |
| 【本店の所在の場所】 | 東京都品川区東五反田二丁目18番1号 |
| 【電話番号】 | 03(4514)2000 |
| 【事務連絡者氏名】 | 執行役員総務部長 小笠原 宏喜 |
| 【最寄りの連絡場所】 | 東京都品川区東五反田二丁目18番1号 |
| 【電話番号】 | 03(4514)2000 |
| 【事務連絡者氏名】 | 執行役員総務部長 小笠原 宏喜 |
| 【縦覧に供する場所】 | 株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) |

1【提出理由】

当社および当社グループの財政状態、経営成績およびキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象が発生いたしましたので、金融商品取引法第24条の5第4項および企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項12号ならびに19号の規定に基づき、本臨時報告書を提出するものであります。

2【報告内容】

(1) 当該事象の発生年月日
平成30年3月7日

(2) 当該事象の内容

減損損失の計上

- a. 当社の連結子会社であるStolle Machinery Company, LLCは、平成23年11月の買収以降、中国・中東向けを中心として順調に販売を伸ばしてまいりましたが、近年の中国を中心とした競合他社の台頭による販売価格の下落、一昨年の世界大手製缶メーカーの合併による設備投資の減退に加えて、中東の政情不安もあり、当初想定していた売上高の伸長が見込まれないことなどから、米国会計基準に基づき同社の持株会社であるCan Machinery Holdings, Inc.において減損処理をおこない、のれん約215億円、無形固定資産約155億円を減損損失として平成30年3月期第4四半期の連結決算において特別損失に計上する見込みです。
- b. 当社の連結子会社である東洋製罐株式会社において、近年の飲料用空缶および蓋、その他の金属缶の需要の減少にともない石岡工場、滋賀工場、千歳工場の固定資産について減損処理をおこない、約125億円を減損損失として平成30年3月期第4四半期の連結決算において特別損失に計上する見込みです。
- c. 当社の連結子会社である日本トーカンパッケージ株式会社において、福岡工場、厚木工場などの固定資産について減損処理をおこない、約15億円を減損損失として平成30年3月期第4四半期の連結決算において特別損失に計上する見込みです。

関係会社株式評価損の計上

上記 a.に記載したStolle Machinery Company, LLCの持株会社であるCan Machinery Holdings, Inc.における減損損失の計上にもとない、当社が保有する同社株式について関係会社株式評価損として約190億円を平成30年3月期第4四半期の個別決算において特別損失に計上する見込みです。

なお、本特別損失につきましては、連結業績に与える影響はありません。

(3) 当該事象の損益に与える影響額

当該事象の発生により、平成30年3月期において、以下のとおり減損損失および関係会社株式評価損を特別損失として計上する見込みです。

《連結》

減損損失 約510億円

《個別》

関係会社株式評価損 約190億円

以 上